

科目名	人間の尊厳と自立						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	江下 馨		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	高齢者施設 福祉事業所勤務実績		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉士として人間の尊厳を学ぶ意味を考え、生活支援の基盤であることを理解する。 介護における尊厳や自立がどのように活かされているかを学ぶ。 専門職として、個々の価値観の違いを理解し、尊重することの必要性を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国家試験問題過去問の正答が答えられる。	
	○			○		グループワークで他者の意見を聞きながら、自分の意見をまとめて発言することができる。	
	○			○		介護における尊厳、自立についての自身の見解を記述できる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護福祉士養成講座 1 人間の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	人間の尊厳と人権 人間を理解すること			Gワーク内容を教科書と関連付けて振り返る		
	2	人間の尊厳と人権 人間の尊厳という理念			使用教材と教科書と関連付けて振り返る		
	3	人間の尊厳と人権 人権、尊厳に関する日本の諸規定 1			Gワーク内容を教科書と関連付けて振り返る		
	4	人間の尊厳と人権 人権、尊厳に関する日本の諸規定 2			Gワーク内容を教科書と関連付けて振り返る		
	5	人権尊重と権利擁護 利用者の人権と生活			教科書の当該項目を読んで振り返ること		
	6	人権尊重と権利擁護 利用者の権利侵害が起こる状況			教科書の当該項目を読んで振り返ること		
	7	人権尊重と権利擁護 権利擁護の視点			教科書の当該項目を読んで振り返ること		
	8	自立のあり方 いろいろな視点からみた自立			教科書の当該項目を読んで振り返ること		
	9	自立のあり方 自立と自律			教科書の当該項目を読んで振り返ること		
	10	自立のあり方 自立への意欲と動機づけ			教科書の当該項目を読んで振り返ること		
	11	自立のあり方 自立支援の考え方			教科書の当該項目を読んで振り返ること		
	12	尊厳保持と自立、自立支援の関係性 尊厳を損なう介護とは1			教科書の当該項目を読んで振り返ること		
	13	尊厳保持と自立、自立支援の関係性 尊厳を損なう介護とは2			教科書の当該項目を読んで振り返ること		
	14	人権思想の潮流			配付プリントと教科書を確認すること		
15	1～14コマ 振り返り 確認			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	(1)グループワークでの参加度を確認する (2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	宿題・レポート 発表	○			◎		25%
		◎					25%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	現代社会と福祉						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	伊東良輔		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	介護実習普及センターにて10年 独立型社会福祉士として5年		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	社会福祉の基本を学び、日本・海外の福祉の成立過程を知ることで現代社会の福祉の本質を考える。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会福祉を学ぶ意義を自らの言葉で説明することができる。	
		○				社会福祉に関する基礎的知識を身に付け、実践現場で活躍できるようになる。	
				○		社会人として必要な態度や言葉遣いを意識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会福祉の成り立ち1			社会情勢について意識する		
	2	社会福祉の成り立ち2					
	3	社会福祉の成り立ち3					
	4	イギリスの福祉成立過程について			海外の福祉情勢について調べる		
	5	アメリカの福祉成立過程について					
	6	ノーマライゼーションの成り立ち1			国内外の福祉の成り立ちを調査		
	7	ノーマライゼーションの成り立ち2			国内の福祉制度について調査		
	8	ノーマライゼーションの成り立ち3					
	9	児童福祉について1					
	10	児童福祉について2					
	11	障がい者福祉について1					
	12	障がい者福祉について2					
	13	高齢者福祉について1					
	14	高齢者福祉について2					
	15	前期のまとめ					
評価方法	出席状況、授業への参加意欲、定期試験(筆記)を実施する。 下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	授業態度				○		20%
履修上の注意							

科目名	コンピュータ						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	平野 久美子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	カルチャー、市民センターでのインストラクターとして勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	Word、PowerPointの基本操作から学び、文書の作成、プレゼンテーションについて、知識を習得していく。練習問題、課題作成などに応用できる力を身に付け、実践的に役立てているけようにする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Word、PowerPointなどを使用し、ビジネス文書の作成をすることができる	
		○				練習問題を解くことによって理解度を確認し、適切な文書作成ができる	
			○			ブラインドタッチを習得し、10分間で300文字以上の入力ができる	
				○		用途に応じて適切なソフトを使用し、報告書の作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	・FOM出版 よくわかるWord2016 & Excel2016 & PowerPoint2016 改訂版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	事前準備・テキスト概要説明・タイピング(自己紹介文作成)					
	2	Windowsの概要・Wordの概要・起動・画面構成・終了				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	ビジネス文書新規作成・削除・挿入・移動・コピー				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	文章の体裁を整える・印刷・保存				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	Office2016の基礎知識・練習問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	ワードアートの挿入・画像の挿入・ページ罫線				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	表を作成・書式・段落罫線を設定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	総復習				総合問題で復習します	
	9	試験(実技・筆記)					
	10	PowerPointの概要・起動・画面構成・新規作成				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	SmartArtの作成・スライドショーの実行・画面切り替え効果・アニメーションの設定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	総復習				総合問題で復習します	
	13	課題作成				実習報告書をPowerPointで作成するための資料収集と課題作成します	
	14	課題作成				実習報告書をPowerPointで作成するための資料収集と課題作成します	
15	発表						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)課題を作成し発表する。(3)定期試験(実技・筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	小テスト		○				15%
	宿題・レポート						
	発表・作品		◎		○		20%
	タイピング			○			15%
履修上の注意							

科目名	介護の基本 I						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期分)	担当者実務経験	福祉施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための科目である。「介護の基本 I」では、「介護福祉の基本となる理念」「介護福祉士の役割と機能」「介護福祉士の倫理」「自立に向けた介護」について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					「介護」誕生の社会的背景を理解し説明することができる。	
		○				介護の概念の変遷を理解しその時代の特徴について説明することができる。	
		○				社会福祉士及び介護福祉士法の定義、義務規定について説明ができる。	
		○				介護福祉士の倫理を理解し遵守の必要性を説明できる。	
	○			○		国家試験(模擬)問題の解説ができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規 介護福祉士養成講座4「介護の基本 I」</li> <li>中央法規 介護福祉用語辞典</li> <li>小六法</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護福祉とは? 介護の成り立ち				テキストの該当部分を読んでおく。	
	2	専門職による「介護」誕生の社会的背景				テキストの該当部分を読んでおく。	
	3	介護の概念の変遷① 1970年・1980年				テキストの該当部分を読んでおく。	
	4	介護の概念の変遷② 1990年・2000年				テキストの該当部分を読んでおく。	
	5	介護の概念の変遷③ 2020年以降				テキストの該当部分を読んでおく。	
	6	介護福祉の基本理念②				テキストの該当部分を読んでおく。	
	7	介護福祉の基本理念②				テキストの該当部分を読んでおく。	
	8	前半授業のまとめ				テキストの該当部分を読んでおく。	
	9	社会福祉士及び介護福祉士法 定義規定				テキストの該当部分を読んでおく。	
	10	社会福祉士及び介護福祉士法 義務規定				テキストの該当部分を読んでおく。	
	11	社会福祉士及び介護福祉士法 罰則規定				テキストの該当部分を読んでおく。	
	12	国家試験対策①				テキストの該当部分を読んでおく。	
	13	国家試験対策②				テキストの該当部分を読んでおく。	
	14	前期定期試験のポイント					
15	前期試験対策						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験は(筆記)試験とする。(3)ノート提出を実施する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	確認テスト	○	○				30%
	ノート提出	○	○		○		20%
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノート・プリント整理を行っておく(確認実施)。</li> <li>確認テストについては、必ず提出すること。</li> <li>授業中の居眠りについては欠課とする。</li> </ul>						

科目名	介護の基本Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期分)	担当者実務経験	福祉施設で介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための科目である。「介護の基本Ⅱ」では、生活を支援するという観点から、フォーマル及びインフォーマルな支援・地域連携・リスクマネジメント・多職種連携・労働環境などを理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					専門用語の意味を理解し説明することができる。	
		○				利用者の個々の生活を理解し、生活支援との結びつきを説明できる。	
		○		○		メンバーと協力しグループワークに取り組み、資料の作成全体発表ができる。	
	○	○				国家試験(模擬)問題の解説ができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規 介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」</li> <li>中央法規 介護福祉用語辞典</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護福祉士の仕事の理解①					
	2	介護福祉士の仕事の理解②					
	3	生活の理解				テキストの次回授業内容を読んでおく。授業内容の復習に取り組むこと。30分	
	4	介護を必要とする人の暮らし(高齢者)				テキストの次回授業内容を読んでおく。授業内容の復習に取り組むこと。30分	
	5	介護を必要とする人の暮らし(障害者)				テキストの次回授業内容を読んでおく。授業内容の復習に取り組むこと。30分	
	6	「その人らしさ」の理解と活用一人々の生きてきた時代を知る①				発表準備	
	7	「その人らしさ」の理解と活用一人々の生きてきた時代を知る②				発表準備	
	8	「その人らしさ」の理解と活用一人々の生きてきた時代を知る③				発表準備	
	9	生活ニーズの理解				テキストの次回授業内容を読んでおく。授業内容の復習に取り組むこと。30分	
	10	生活のしづらさの理解と支援				テキストの次回授業内容を読んでおく。授業内容の復習に取り組むこと。30分	
	11	家族介護者への支援①				テキストの次回授業内容を読んでおく。授業内容の復習に取り組むこと。30分	
	12	家族介護者への支援②				テキストの次回授業内容を読んでおく。授業内容の復習に取り組むこと。30分	
	13	国家試験(模擬)問題				授業中に実施した問題の復習をしておくこと 60分	
	14	国家試験(模擬)問題				授業中に実施した問題の復習をしておくこと 60分	
15	前期試験対策				テキスト・ノート・プリントの整理、授業内容の復習をしておくこと 60分		
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験は(筆記)試験とする。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	確認テスト	○	○				30%
	ノート提出	○	○		○		20%
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート・プリント整理を行っておく(確認実施)。</li> <li>・確認テストについては、必ず提出すること。</li> <li>・授業中の居眠りは欠課とする。</li> </ul>						

科目名	コミュニケーション技術						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	江下 馨		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	高齢者施設 福祉事業所勤務実績		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答することができる。	
			○	○		チームでの取り組みに意欲的に参加、協働し作品を制作することができる。	
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	介護におけるコミュニケーションの基本 意義と目的			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	2	介護におけるコミュニケーションの対象 役割・対象			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	3	コミュニケーションの基本技術 態度			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	4	コミュニケーションの基本技術 制作 1			チーム間でのコミュニケーションを図り、次回の取り組みを決めておくこと		
	5	コミュニケーションの基本技術 制作 2			チーム間でのコミュニケーションを図り、次回の取り組みを決めておくこと		
	6	コミュニケーションの基本技術 制作 3			チーム間でのコミュニケーションを図り、次回の取り組みを決めておくこと		
	7	コミュニケーションの基本技術 制作 4			チーム間でのコミュニケーションを図り、次回の取り組みを決めておくこと		
	8	コミュニケーション態度に関する基本技術 作品制作振り返り			チーム間でのコミュニケーションを図り、次回の取り組みを決めておくこと		
	9	コミュニケーション態度に関する基本技術 言語・非言語・準言語			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	10	コミュニケーション態度に関する基本技術 目的別技術 1			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	11	コミュニケーション態度に関する基本技術 目的別技術 2			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	12	集団におけるコミュニケーション技術 1			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	13	集団におけるコミュニケーション技術 2			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
	14	国家試験過去問 解説 1			当該項目内容を終了後に確認しておくこと		
15	国家試験過去問 解説 2 前期まとめ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	(1)チームでの作品制作を行い、発表する (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	作品制作・発表			○	○		50%
履修上の注意							

科目名	生活支援技術 I A-①(住居)						
科目名(英)	LIVELIHOOD SUPPORT TECHNOLOGY						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	香川 治美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学にて教員として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科・1年						
授業概要	<p>「生活支援技術」とは、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠にもとづいた介護実践を行うための知識・技術を学習する科目である。</p> <p>本科目では、特に人間生活の空間的拠点である住まいの役割と機能、安全で快適な室内環境のあり方についての講義や演習をもとに、根拠にもとづく介護実践に向けた基礎的な知識・技術を習得する。</p>						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				住まいの役割や住要求の変化・地域とのつながりの意義について、学び、説明できる。	
	○	◎				生活行為、人体寸法や起居様式について、学び、生活空間を整備する際の留意点を説明できる。	
	○	◎				安全で快適な室内環境整備ならびに維持管理について、学び、その必要性を説明できる。	
				○		チームケアの事例から多職種連携の重要性について、学び、説明できる。	
			◎			居住環境整備の事例から、その必要性を説明し、提案できる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	住まいの役割と機能 家族と生活空間 演習①-1			教科書p.31～34を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	2	生活行為・人体寸法・起居様式と生活空間 演習①-2			教科書p.35～38を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	3	寝室・トイレ・浴室・洗面脱衣室へのニーズの変化 演習①-3			教科書p.38～43を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	4	台所・居間・食事室に対するニーズの変化 演習①-4			教科書p.43～45を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	5	生活環境と室内環境、室内の熱環境・光環境 演習①-5			教科書p.46～51を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	6	室内の音環境 住まいの維持・管理 住宅内事故 演習①-6			教科書p.51～57を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	7	日本家屋の問題点 日常安全のための対応策 演習①-7			教科書p.58～59を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	8	日常安全のための対応策 演習①-8			教科書p.60～61を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	9	住宅改修・福祉用具と介護保険制度 演習①-9			教科書p.61～63を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	10	災害に対する備え 高齢者の住まい 演習①-10			教科書p.63～67を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	11	障害者の住まい 住まいと地域 演習①-11			教科書p.67～70を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	12	居住環境整備にかかわる職種とその役割 演習②と③の説明			教科書p.71～75を事前に読み、また演習プリントをふりかえり質問点を準備しておくこと(0.5時間)		
	13	演習②-1チームケアの事例 演習③-1事例調査			演習②と演習③に取り組むこと(4時間)		
	14	演習②-2住環境整備事例 演習③-2事例調査			演習②と演習③に取り組むこと(4時間)		
15	総説 試験対策・解説			教科書の該当範囲、全ての配布資料(演習プリントを含む)を復習し、質問点を準備しておくこと(2時間)			
評価方法	(1)毎回授業で確認テストを兼ねた演習①を実施する。(2)演習②③を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上(1)～(3)を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	演習①(確認テスト)	○	◎				10%
	演習②		○		◎		20%
	演習③			○		◎	20%
履修上の注意	演習①②③の全ての提出を必須とします。欠席した場合は次週にプリントを受け取り必ず提出すること。						

科目名	生活支援技術ⅡA(介護技術)						
科目名(英)	LIVELIHOOD SUPPORT TECHNOLOGY						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして居宅支援事業所勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	生活支援技術とは、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する科目である。この科目ではICFの視点をもって利用者の全体像、個別性を知ることの大切さを学ぶ。また、生活支援技術のひとつである移動・移乗についての基本的理解とその介助、移動・移乗のための道具や用具について学ぶ。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ICFで使用される共通言語を知り、ICFの視点をもってご利用者を理解できる。	
	○	○				根拠ある介護行為を「心身の状態」「ご利用者の生活への思い」の2つの視点から説明できる。	
	○	○	○	○		ボディメカニクスを応用した、利用者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を実践できる。	
	○					移動・移乗のための環境と整備、福祉用具の種類について述べるができる。	
○		○	○			基本的な手順を理解したうえで介助方法を実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 生活支援の理解 生活支援の基本的な考え方				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	2	第1章 生活支援の理解 ICFの視点に基づく生活支援				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	3	第1章 生活支援の理解 ICFの視点に基づく生活支援 確認テスト				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	4	第3章 自立に向けた移動の介助 第1節 自立した移動とは				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	5	第3章 自立に向けた移動の介助 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護 移動・移乗の基本的理解				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	6	第3章 自立に向けた移動の介助 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護 体位変換の介助				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	7	第3章 自立に向けた移動の介助 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護 安楽な姿勢・体位				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	8	演習 体位変換・安楽な姿勢				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	9	第3章 自立に向けた移動の介助 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護 移動・移乗の為の道具・用具				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	10	演習 移動・移乗の為の道具・用具				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	11	演習 車いす操作				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	12	演習 歩行の介助				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	13	第4章 福祉用具の意義				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
	14	第5章 福祉用具の意義 公的制度における福祉用具サービス				学習予定内容に目を通しておくこと(20分) 学習した内容は必ず復習しておくこと(30分)	
15	まとめ				重要ポイントを確認するためノート、プリント類を整理しておくこと(60分)		
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回以上実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 (4)演習を4回実施する。(5)授業には積極的に参加すること 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	出席状況				○		10%
	演習		○	○	○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。演習では介護技術の習得だけでなく介護される側の尊厳を保持する関わりを考える。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	生活支援技術ⅡB(介護技術)						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	江下 馨		
実施年度	2020年度	実施時期	前期(通年)	担当者実務経験	高齢者施設 福祉事業所勤務実績		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識、技術を学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○	○	○	○		各単元の生活支援技術を安全安楽に行うことができる。	
		○	○	○		実施した生活支援技術の根拠を伝えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ 介護福祉士国家試験 過去問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目概要 実習室の使い方、休息睡眠の介護 ベッドの構造、睡眠の意義					
	2	休息睡眠の介護 2人でのシーツ、リネン交換				演習練習を行っておくこと	
	3	休息睡眠の介護 1人でのベッドメイキング				演習練習を行っておくこと	
	4	休息睡眠の介護 臥床でのシーツ交換				演習練習を行っておくこと	
	5	ベッドメイキング 確認テスト				出来るまで演習を行うこと	
	6	自立に向けた食事の介護 食のメカニズム 摂食、嚥下の流れ				該当範囲を確認すること	
	7	自立に向けた食事の介護 食事の一連動作 環境の工夫 ベット上介助				該当範囲を確認すること	
	8	自立に向けた食事の介護 座位での食事介助(とろみ)				該当範囲を確認すること	
	9	自立に向けた食事の介護 誤嚥予防のための支援				該当範囲を確認すること	
	10	自立に向けた食事の介護 多職種連携				該当範囲を確認すること	
	11	自立に向けた身支度の介助 介護職が行う口腔ケア 効果				演習内容を教科書と関連付けて確認すること	
	12	自立に向けた身支度の介助 演習 座位での口腔ケア				演習内容を教科書と関連付けて確認すること	
	13	自立に向けた身支度の介助 状態別口腔ケアの留意点				演習内容を教科書と関連付けて確認すること	
	14	自立に向けた身支度の介助 演習 ベット上での口腔ケア				演習内容を教科書と関連付けて確認すること	
	15	睡眠・食事・口腔ケア 確認テスト				復習しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で実技テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	実技テスト		○	○	○		50%
履修上の注意	実技テストを欠席した場合は、別日に実施し評価を行う。 介護実習室にて身だしなみに不備がある場合は、一旦退室して整えること。改善されない場合は欠課扱いとなる。						

科目名	介護総合演習 I				
科目名(英)					
単位数	6単位	時間数	90(45時間)	担当者	大島夕子
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	福祉施設に介護福祉士として勤務
対象学科・学年	介護福祉科1年				
授業概要	本科目においては、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことを目的とする。各段階の実習ごとに設定された実習目標達成のために、実習前、実習中、実習後の学びを行う。				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
	○	○		○	
	○	○			
	○	○		○	
目標	自己の実習施設の施設概要について説明できる。 各段階における実習目標達成のための具体的な取り組みを整理し伝えることができる。 実習後、自己の実習を振り返り、目標の達成度、今後の課題を文章化できる。 実習後、実習報告会にて、実習の学びをまとめ発表することができる				
テキスト・教材 参考図書	介護総合演習・介護実習				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	実習概要			
	2	第1段階(前期)実習準備			実習報告会冊子確認
	3	第1段階(前期)実習準備			第1段階(前期)実習報告会
	4	第1段階(前期)実習準備			第1段階(前期)実習報告会
	5	第1段階(前期)実習準備			第1段階(前期)実習報告会
	6	第1段階(前期)実習準備			第1段階(前期)実習報告会
	7	第1段階(前期)実習準備			
	8	第1段階(前期)実習準備			実習の意義と目的を読んでおく
	9	第1段階(前期)実習準備			実習施設の概要について事前学習をしておく
	10	第1段階(前期)実習準備			実習前面接の準備
	11	第1段階(前期)実習準備			
	12	第1段階(前期)実習準備			
	13	第1段階(前期)実習準備			実習施設の場所・公共交通機関について調べておく
	14	第1段階(前期)実習準備			実習施設について調べる
	15	第1段階(前期)実習準備			実習施設について調べる
	16	第1段階(前期)実習準備			実習施設について調べる
	17	第1段階(前期)実習準備			
	18	第1段階(前期)実習準備			
	19	第1段階(前期)実習報告会準備			発表原稿の作成
	20	第1段階(前期)実習報告会準備			発表原稿の作成
	21	第1段階(前期)実習報告会			
	22	第1段階(前期)実習報告会			
	23				
	24				
25					

<b>評価方法</b>	(1)授業中のレポート作成(2)実習前面接(態度・実習への意欲)(3)実習報告会(準備・発表)により評価を行う。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	○		○		30%
	報告会原稿・PP	○	○		○		50%
	身だしなみ・意欲・態度				○		20%
<b>履修上の注意</b>							

科目名	第 I 段階(前期)実習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	40時間	担当者	大島・角屋・江下		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	福祉施設で介護福祉士として勤務(大島・江下) 看護師として病院・ケアマネとして居宅支援事業所勤務(角屋)		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	利用者との人間的ふれあいを通じて、コミュニケーション技術を学ぶ。 介護職員の業務内容を知る。 介護福祉の実践の場の1つである施設を体験的に理解し、基本的援助方法を学び利用者の生活全般を理解する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○	○	施設を利用している方の生活を理解できる。	
	○	○	○	○	○	業務内容を理解できる。	
	○	○	○	○	○	利用者とのコミュニケーションを積極的に図れる。	
	○	○	○	○	○	実習を通して自分自身を見直せる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日8時間×5日間 各実習先で実習。実習担当指導者、巡回教員による個別指導。				各領域において習得した知識・技術を統合する。	
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
10							
評価方法	評価項目は評価表に準ずる。 コミュニケーション・実習態度・記録大項目。小項目はA～E5段階評価。 施設点、教員点の合計が60点以下不合格。再実習の結果により再履修。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	施設評価	○	○	○	○	○	75%
	担当教員評価	○	○	○	○	○	25%
履修上の注意	100%出席をもって評価の対象となる。規定規則に定める時間数(3分の2以上)に満たない者については再実習となる。						

科目名	発達と老化の理解						
科目名(英)	Human Development and Aging						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして居宅支援事業所勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	本授業では、人間の生涯発達の視点も踏まえながら、老年期の心理的特徴ならびに身体機能の変化の特徴に関する基本的知識を習得する。また「高齢者」「老い」について制度や理論を通じて理解する。高齢者に多い疾患の基礎知識とともに日常生活に及ぼす影響を理解することで、全人間的に高齢者への生活支援をアセスメントできることを目的とした授業である。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				制度や理論から「高齢者」の規定について説明することが出来る。	
	○					老年期の変化には心身ともに多様性があること説明できる。	
		○		○		高齢者体験を通して高齢者の身体的変化が及ぼす日常生活への影響を考えることが出来る。	
	○					加齢による身体変化の特徴について説明することが出来る。	
○	○					加齢による身体変化が及ぼす心理的影響について説明することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「発達と老化の理解」 社会福祉小六法 (1コマ目で使用)						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	オリエンテーション 第3章 第1節 老年期定義		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	2	第3章 第2節 老化とは		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	3	第2章 第3節 身体的機能の成長と発達①		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	4	第2章 第3節 身体的機能の成長と発達②		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	5	高齢者体験①		事前に指示されたことを準備しておく(10分) 体験からの学びについてレポート作成(30分)			
	6	高齢者体験②					
	7	第3章 第4節 老年期をめぐる今日的課題		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	8	第4章 第3節 老化に伴う社会的な変化と生活への影響①		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	9	第4章 第3節 老化に伴う社会的な変化と生活への影響②		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	10	第4章 第2節 老化に伴う心理的な変化と生活への影響①		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	11	第4章 第2節 老化に伴う心理的な変化と生活への影響②		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	12	第4章 第2節 老化に伴う心理的な変化と生活への影響②		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	13	第4章 第3節 老化に伴う社会的な変化と生活への影響①		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
	14	第3章 第3節 老年期の発達課題		事前にテキストに目を通しておくこと(15分) 学習内容は必ず復習する(15分)			
15	まとめ		重要ポイントを確認できるように事前にノート、プリントを整理しておくこと				
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回以上実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 (4)出席状況には授業への参加態度(居眠り・私語・グループワークや発表の様子)。以上を下記の観点・割合で評価する。)成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				30%
	宿題・レポート		○		○		10%
	出席状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	こころとからだのしくみ I (心理)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畑中 美穂		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	行政における保健指導・相談業務 および 介護老人福祉施設における心理ケア担当		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	「人が生活する上で心と体はどのように働くのか」についての心理学の基本的な知識を習得し、人間の成長と発達について学ぶことにより、介護実践および自身の生活に活かせるようになることを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間の欲求について学び、自己実現と尊厳の重要性について理解できる	
	○	○				こころのしくみとしての心理学の基礎を学び、理解できる	
	○	○				人間の成長と発達の基礎的知識を学び、理解できる	
	○	○		○		人間の発達段階と発達課題を学び、人のライフサイクルが概観できる	
○			○		学びの中から自己の振り返りができ、自己理解に結びつきかけとなる		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座11 - こころとからだのしくみ</li> <li>・中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座12 - 発達と老化の理解</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	心理学とはーオリエンテーション					
	2	心理学を概観する					
	3	こころのしくみを理解するー人間の欲求とは					
	4	こころのしくみを理解するー自己実現と尊厳					
	5	こころのしくみを理解するーこころのしくみの基礎①					
	6	こころのしくみを理解するーこころのしくみの基礎②					
	7	こころのしくみを理解するーこころのしくみの基礎③					
	8	人間の成長と発達の基礎的知識ー成長・発達のかんがえ方					
	9	人間の成長と発達の基礎的知識ー成長・発達の原則・法則					
	10	人間の成長と発達の基礎的知識ー成長・発達に影響する要因					
	11	人間の発達段階と発達課題ー発達理論、発達段階と発達課題					
	12	人間の発達段階と発達課題ー心理的機能の発達					
	13	人間の発達段階と発達課題ー社会的機能の発達					
	14	* これまでの内容を踏まえ、重点的事項やトピックスを採り上げた講義					
15	* 本科目のまとめ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	(1)毎回の講義の中でレポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		○		35%
	発表・作品						
出席状況				○		15%	
履修上の注意	授業計画は学生の理解状況や関心等によって内容を臨機応変に変更し、グループワークなども採り入れながら講義を進めていきたいと思っております。積極的な参加を求めます。						

科目名	こころとからだのしくみⅡ①						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして居宅支援事業所勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	障害や加齢による心身の変化や病態を理解するための基盤として正常な人体における解剖生理学の知識を習得し、介護サービスを提供する際の根拠を理解する。この授業は介護を必要とする人々の増加、ニーズの多様化の中で、専門性の基礎となる。心理学や医学一般の知識と関連づけて、利用者の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護技術の根拠となる人体の名称、構造や機能について述べるができる。	
		○				代表的な疾患や症状の特徴を理解したうえで、からだの状態変化に気づく観察項目があげられる。	
		○				介護サービスの提供における安全への留意点をその根拠とともに説明することができる。	
			○	○		適切な手技でバイタルサインの測定ができる。	
	○		○			他者からの助言が無くても、利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。	
テキスト・教材 参考図書	「介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ」中央法規 「しくみと病気がわかる からだの辞典」成美堂出版 「7訂介護福祉用語辞典」中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション リメディアル課題確認テスト 序章 「健康とはなにか」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	2	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 身体各部の名称 細胞・遺伝			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	3	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 骨・筋肉			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	4	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 骨・関節のはたらき 筋肉の動き			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	5	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 脳・神経			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	6	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 感覚器①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	7	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 感覚器②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	8	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 呼吸器			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	9	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 循環器			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	10	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 消化器			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	11	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 内分泌・血液			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	12	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 泌尿器 生殖器			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	13	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ バイタルサイン・介護福祉職に必要な薬の知識			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(10分) 確認テストを実施するので、復習しておくこと(15分)		
	14	バイタルサインの演習			バイタルサイン測定の手順を事前に復習しておく(15分)		
15	前期内容のまとめ 前期試験対策			重要ポイントを再度確認するため、これまでのノートやプリント類を事前に整理しておくこと(60分)に			
評価方法	(1)授業の中で項目ごとに小テストを実施する。正答率80%未満であれば補講および再テストを実施する。 (2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)授業には積極的に参加すること 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト/実技試験	○	○	○	○		30%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	出席状況				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	グローバルシティズンベーシック I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして在宅支援事業所勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	この科目では、世界が自立しながらも互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に協力できる人を目指すことを目的とし、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)について学ぶ						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					麻生塾の求めるコンピテンシーについて述べるができる。	
		○				日常生活で意識して行動にうつすことができる。	
		○				キャリアビジョンをもち、その目標達成への具体的な行動を述べるができる。	
		○		○		授業で学んだことに対して自分の考えをレポートにまとめることができる。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう				テキストにあらかじめ目を通しておく(0.5時間) 授業後はもう一度学習内容を振り返る(0.5時間)	
	2	「協働」の態度を持った学生生活				テキストにあらかじめ目を通しておく(0.5時間) 授業後はもう一度学習内容を振り返る(0.5時間)	
	3	よりよい人間関係の構築に向けて モラル・ルール・マナーの重要性				テキストにあらかじめ目を通しておく(0.5時間) 授業後はもう一度学習内容を振り返る(0.5時間)	
	4	マナーの本質 I				テキストにあらかじめ目を通しておく(0.5時間) 授業後はもう一度学習内容を振り返る(0.5時間)	
	5	マナーの本質 II				テキストにあらかじめ目を通しておく(0.5時間) 授業後はもう一度学習内容を振り返る(0.5時間)	
	6	グローバルシティズンとしての日常				テキストにあらかじめ目を通しておく(0.5時間) 授業後はもう一度学習内容を振り返る(0.5時間)	
	7	グローバルシティズンとしての目標				テキストにあらかじめ目を通しておく(0.5時間) 授業後はもう一度学習内容を振り返る(0.5時間)	
	8	グローバルシティズンとしての「志」にむけて				テキストにあらかじめ目を通しておく(0.5時間) 授業後はもう一度学習内容を振り返る(0.5時間)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループワークでの参加状況 (3)授業中の態度(居眠り・私語・積極的な発言)以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート		○		○		50%
	出席状況				○		20%
	演習(グループワーク)		○		○		30%
履修上の注意	レポートは期限を守る。誤字・脱字がないか確認し丁寧な字で記入する。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						